

(メッセ海外通信 2012年7→9月号掲載記事)

～高まり続けるマイカー購入熱～

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
三浦 万季

ここ数年、青島市民の間でマイカー購入熱が高まっています。

今年3月に青島市環境保護局が発表した報告によると、2011年の青島市の自動車保有量は約117万台となり、この5年間で自動車保有量は約2倍と、爆発的に台数が増え続けているのだそうです。

自動車保有量の約117万台のうち、自家用車は約90万台で、青島市の約9人に1人が自家用車を所有している計算になります。

青島市内では、ベンツ・BMWなどの高級セダンも珍しくありません。中国ではこれらの高級車は“豪車”と呼ばれ、面子(メンツ)を愛する中国の人々にとって社会的地位を誇示する一つの手段にもなっているようです。また、富裕層だけでなく、経済の発展とともに生活の充実を求める一般市民にとっても自家用車は非常に魅力のあるものになりました。

しかしながら、現在の青島市内の都市整備状況と照らし合わせると、青島市内の自家用車の量はすでに許容範囲を超えているのではないかという感想を持たざるを得ません。朝夕の通勤ラッシュ時間帯は、青島市内のいたるところで渋滞が発生し、青島市民が最もいらいらする時間です。歩いた方が早い気さえしてきます。また、道の両脇や歩道などに違法駐車している無数の車両を目にします。

これは、この青島市での自家用車の爆発的な増加が、都市整備において予期していた範囲を超えていることを示しているのかもしれない。このまま自家用車が増え続けることに対して、不安を感じる市民も多いのではないのでしょうか。

そのような状況の中、今年の5月に青島市内で開催された国際モーターショーでは、6日間で延べ46万人が来場し、この一回の開催で9000台余りの車両の売買が成約したとのこと。また、8月には、中国での開催が初となる国際的なモータースポーツの大会であるインディカーレースが、青島市で開催されることとなっています。これらのことは、世界の自動車業界が、中国におけるさらなる市場拡大を狙っている表れであると言えるでしょう。

ますます深刻化する交通渋滞・路上駐車と比例するかのよう、青島市でのマイカー購入熱が衰える気配はありません。自家用車が増加することにより青島市内で生じている様々な問題を今後どのように解決していくのか、青島市民が注目しています。2014年には、青島市の南北をつなぐ地下鉄3号線が開通します。この地下鉄の開通が、果たしてこれらの問題の解決策となるのか、そしてマイカー購入熱に少しでも変化が現れるのか、青島市民の関心は高まります。



午後3時半、すでに混み合う青島膠寧高架路



盛況を呈する国際モーターショーの様子